

令和元年度みえ森と緑の県民税基金事業のうち、議論する事業

目 次

(1) 議論する事業の抽出	2
(2) 議論する事業の概要	
① 危険木伐採事業（紀北町）	3
② ふれあい広場ベンチ整備事業（川越町）	16
③ 集落周辺森林（里山）整備事業（紀北町）	22
④ 播磨2号緑地里山整備事業（桑名市）	34
⑤ 森林環境に関する講演事業及び木製備品購入事業（鈴鹿市）	40
⑥ 森林環境教育事業（南伊勢町）	50
⑦ 森林情報基盤整備事業（県）	56

1. 令和元年度みえ森と緑の県民税 事業別評価

(1) 議論する事業の抽出

評価点が低かった事業から7事業を抽出

手順1：評価点が低かった（2.4点、2.5点）事業

実施主体	対策区分	事業名	有効性		効率性		公益性		情報発信度	
			平均点	評価	平均点	評価	平均点	評価	平均点	評価
紀北町	2	危険木伐採事業	3.1	B	3.1	B	3.2	B	2.4	C
川越町	4	ふれあい広場ベンチ整備事業	3.0	B	3.0	B	2.8	C	2.5	C
紀北町	2	集落周辺森林（里山）整備事業	3.4	B	3.0	B	3.2	B	2.5	C

手順2：評価点2.6点の視点があり、かつ、C評価が2つ以上ついた事業

実施主体	対策区分	事業名	有効性		効率性		公益性		情報発信度	
			平均点	評価	平均点	評価	平均点	評価	平均点	評価
桑名市	5	播磨2号緑地里山整備事業	3.1	B	2.8	C	2.9	B	2.6	C
鈴鹿市	4	森林環境に関する講演事業及び木製備品購入事業	3.3	B	2.6	C	3.2	B	2.8	C

手順3：抽出されていない「対策区分3」の事業のうち、もっとも低い評価点だった事業

実施主体	対策区分	事業名	有効性		効率性		公益性		情報発信度	
			平均点	評価	平均点	評価	平均点	評価	平均点	評価
南伊勢町	3	森林環境教育事業	3.1	B	3.0	B	3.1	B	2.6	C

手順4：抽出されていない「対策区分1」の事業のうち、事業内容が分かりづらいとされた事業

実施主体	対策区分	事業名	有効性		効率性		公益性		情報発信度	
			平均点	評価	平均点	評価	平均点	評価	平均点	評価
県	1	森林情報基盤整備事業	3.3	B	3.2	B	3.2	B	2.7	C

議論する事業①

(1) 事前評価の結果

実施主体	対策区分	事業名	有効性		効率性		公益性		情報発信度	
			平均点	評価	平均点	評価	平均点	評価	平均点	評価
紀北町	2	危険木伐採事業	3.1	B	3.1	B	3.2	B	2.4	C

(2) 事前評価における委員からのコメント

評価視点	評価点	委員からのコメント
有効性	3	補助率の設定
	3	危険木の除去は必要な作業である。
効率性	4	金額も妥当であると考え。他の市町もこのくらいの報告書にするべきである。
公益性	3	毎回私有地の樹木の処理について委員会で議論がされるが、森林或は樹木を持つ公益機能（光合成による二酸化炭素の吸収は酸素の供給、水土保全、景観、生物多様性など）についての対価は所有者に対して払われていないが、その恩恵は皆が受けている。木竹が公益に対し悪影響を及ぼすようになり、様々な理由（経済的、高齢化）等により、所有者が管理しきれなくなっている。現状の日本においては管理が十分できなくなった木竹や、林地を部分的に手放す制度は無く、好むと好まざるとに関わらず、相続したものはずっと背負って行かざるを得ない。維持が難しくなった林地を税で支援することは道理に適うと考える。
情報発信度	2	他の手段でも情報発信をしてほしい。
	1	広く県民にアピール願います。
	2	写真判別しにくいのが残念。
	2	看板以外の広報について検討されたい。

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり			市町名	紀北町
番号	事業名				
1	危険木伐採事業				
事業費	4,281,820 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,081,000		200,820

1. 事業の目的

人家その他公共施設等に密接し、倒木の危険性のある立木による被害を未然に防止し、生活環境の保全や向上を図る観点から人家裏山林の危険木の伐採費用について補助を行う。

2. 事業実績概要

【事業内容】
人家に隣接し、倒木になる恐れのある山林内の危険木について、緊急に伐採等する必要がある場合に限り、その費用の一部を自治会に補助する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】
自治会

【補助率等】
補助率は伐採経費の10分の9とし、1申請者につき1年度50万円（千円未満は切り捨て）を上限とする。

【箇所数】
11箇所（10自治会）。山本地区1箇所、田山地区1箇所、新町3区1箇所、引本浦地区1箇所、片上2区1箇所、中新田地区1箇所、島勝浦地区1箇所、出垣内5区1箇所、中里地区2箇所、上里地区1箇所

【事業量】
11箇所。228本。

【事業実施期間】
平成31年4月12日～令和2年3月30日

【受益者、参加者、利用者数等】
危険木伐採により生活環境が向上した地区は10地区

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】
自治会からの要望、補助申請箇所について、職員が写真及び現地調査により現状を確認し、実施の必要性を検討して交付を決定している。

【事業実施により得られた効果】
集中豪雨や強風時の倒木による危険性を未然に回避し、地域住民の生活環境が向上し、安全、安心が確保された。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】
危険木伐採のため、活用予定はなし。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】
今回の事業実施により、森林所有者はもとより、各地区の住民が森林の管理の必要性を再認識し、森林整備の意識の醸成につながった。また、各自治会からは、人家裏山林の状況を再度確認した上で事業に取り組みたいと聞いている。

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町
------	-----------------	-----	-----

番号	事業名			
1	危険木伐採事業			
事業費	4,281,820 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金
			4,081,000	
			その他	200,820

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
補助事業

【実施方法の選定理由】
町が主体となり個人所有の樹木の伐採はできないため、自治会を主体とした補助事業とした。

【契約方法と落札率または補助率等】
伐採事業費の90%（千円未満切捨て）
上限50万円

【契約相手方の選定理由】
契約ではない。

【事業費の積算根拠】
見積書による。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
要望をされた自治会の生活の安全性が向上する。

【公的関与の必要性】
個人では危険木の伐採には手間も費用もかかることで伐採が遅れてしまうため、補助によって早期に伐採することが出来る。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
町の補助金交付要綱により、自治会が森林所有者から事業実施の同意は得ているが、転用や目的外使用について書面により一定の制限はかけていない。但し、森林内での必要最低限の危険木伐採であり、転用等の話も聞き及んでいない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

- ・HP掲載
- ・広報誌掲載
- ・新聞掲載
- ・テレビ（行政チャンネル）放映
- ・チラシ配布（配布対象者：)
- ・ポスター掲示（掲示場所：)
- ・パネル展示（展示場所：)
- 看板設置（設置場所：各事業施工場所)
- ・その他（方法：)（場所：)

【情報発信の対象】
地区住民

【情報発信の内容】
みえ森と緑の県民税を活用した事業箇所であることを明記した看板の設置

7. 写真
別紙のとおり

8. その他特記事項
暮らしに身近な森林づくりの重要性を再認識し、税を活用する事業であることを自治会（地区住民）で議論していただくために、自治会としての要望書の提出を事前に義務付けている。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	紀北町
-----	-----

事業名	危険木伐採事業
-----	---------

7. 写真



写真1
新町3区【実施前】



写真2
新町3区【実施後】



写真3
新町3区【看板設置状況】

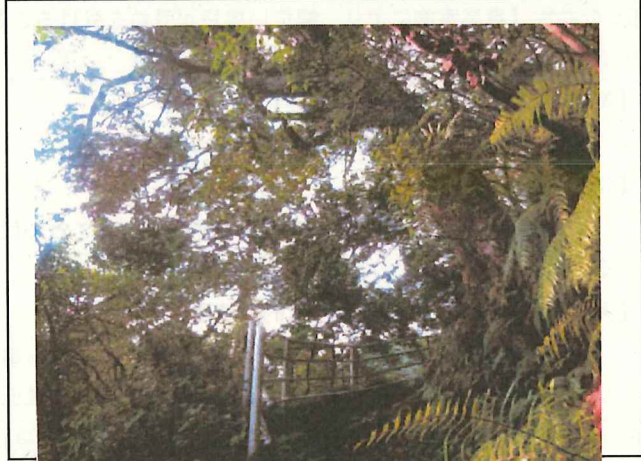


写真4
中新田地区【実施前】



写真5
中新田地区【実施後】



写真6
中新田地区【実施後】

対策区分 2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名 紀北町

事業名 危険木伐採事業

7. 写真



写真7
島勝浦地区【実施前】



写真8
島勝浦地区【実施後】



写真9
島勝浦地区【看板設置状況】

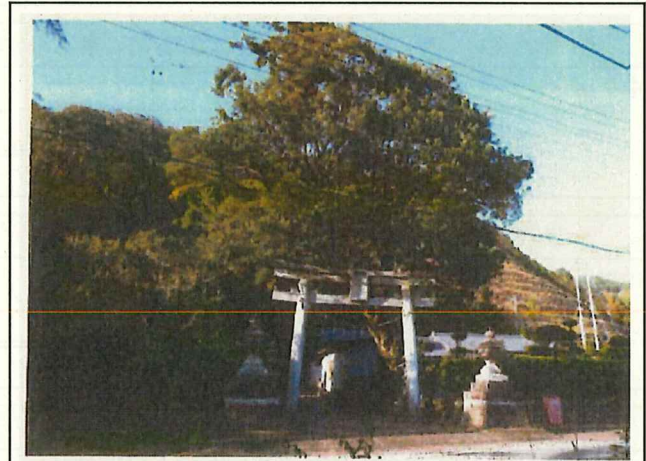


写真10
中里地区【実施前】



写真11
中里地区【実施後】



写真12
中里地区【看板設置状況】

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	紀北町
-----	-----

事業名	危険木伐採事業
-----	---------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考（伐採経費）
中里区	式	1.00	137,000	137,000	152,280
中里区	式	1.00	263,000	263,000	292,680
島勝浦区	式	1.00	336,000	336,000	374,440
田山区	式	1.00	189,000	189,000	210,600
中新田区	式	1.00	284,000	284,000	316,580
上里区	式	1.00	399,000	399,000	444,400
引本浦自治会	式	1.00	407,000	407,000	452,790
新町3区	式	1.00	354,000	354,000	394,200
出垣内5区	式	1.00	498,000	498,000	554,400
片上2区	式	1.00	500,000	500,000	564,570
山本区	式	1.00	472,000	472,000	524,880
需用費	式	1.00	242,000	242,000	
事業費				4,081,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
中里区	危険木伐採（1本）	式	1.00	137,000	137,000	補助金
	計				137,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
中里区	危険木伐採（1本）	式	1.00	263,000	263,000	補助金
	計				263,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
島勝浦区	危険木伐採（20本）	式	1.00	336,000	336,000	補助金
	計				336,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
田山区	危険木伐採（12本）	式	1.00	189,000	189,000	補助金
	計				189,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
中新田区	危険木伐採（10本）	式	1.00	284,000	284,000	補助金
	計				284,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
上里区	危険木伐採（20本）	式	1.00	399,000	399,000	補助金
	計				399,000	

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	紀北町
-----	-----

事業名	危険木伐採事業
-----	---------

積算資料(実績報告参考資料)

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
引本浦自治会	危険木伐採(21本)	式	1.00	407,000	407,000	補助金
	計				407,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
新町3区	危険木伐採(30本)	式	1.00	354,000	354,000	補助金
	計				354,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
出垣内5区	危険木伐採(34本)	式	1.00	498,000	498,000	補助金
	計				498,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
片上2区	危険木伐採(28本)	式	1.00	500,000	500,000	補助金
	計				500,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
山本区	危険木伐採(51本)	式	1.00	472,000	472,000	補助金
	計				472,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
需用費	みえ森と緑の県民税看板	基	11.00	22,000	242,000	補助金
	計				242,000	

※補助率等
 補助率は伐採経費の10分の9とし、1申請者につき1年度50万円(千円未満は切り捨て)を上限とする。
 補助対象経費は伐採経費のみとする。
 当該危険木の森林所有者とその隣接する人家等の所有者が同一でないこと。
 緊急的な伐採が必要な危険木であること。
 地目は山林であること。

実績報告書に記載を行っていない情報発信

1. ケーブルテレビの行政チャンネルによる取組紹介

ケーブルテレビの紀北町行政情報チャンネルにおいて、前年度（平成30年度）の取組について紹介しました。

放送日：令和元年12月5日から1週間（1日複数回、繰り返し放送）

放送内容：前年度（平成30年度）の取組について、農林水産課職員が紹介しました。「危険木伐採事業」「集落周辺森林（里山）整備事業」ともに継続事業であるため、事業目的や制度も併せて紹介しています。

*事業実施箇所は、平成30年度と令和元年度で異なります。

令和元年度事業についても、令和2年度に同様に紹介する予定です。

2. パネル展示による事業成果の紹介（始神テラス）

紀勢自動車道の始神テラスにおいて、令和元年度の取組について紹介しています。

展示日：令和2年6月26日から

展示内容：令和元年度の取組について、パネルで紹介するほか、チラシやリーフレットを設置し、みえ森と緑の県民税のPRをしています。

1. ケーブルテレビの行政チャンネルによる取組紹介（テロップの抜粋）

（テロップ1）

みえ森と緑の県民税とは

「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるため、三重県で平成26年4月1日から導入された制度

（テロップ2）



（テロップ3）

平成30年度に実施した4つの取り組み

- ・「土砂や流木を出さない森林づくり」
- ・「暮らしに身近な森林づくり」
- ・「森を育む人づくり」
- ・「木の薫る空間づくり」

(テロップ5)

「暮らしに身近な森林づくり」

- ・危険木伐採事業

- ・志子奥地区

実施前



実施後



(テロップ6)

「暮らしに身近な森林づくり」

- ・集落周辺森林里山整備事業



(テロップ9)

基本方針

- ・災害に強い森林づくり
- ・県民全体で森林を支える社会づくり



強化・充実

- ・土砂や流木による被害を出さない森林づくり
- ・暮らしに身近な森林づくり
- ・森を育む人づくり
- ・森と人をつなぐ学びの場づくり
- ・地域の身近な水や緑の環境づくり

の5つの対策を実施していきます。

2. パネル展示による事業成果の紹介（始神テラス）

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業 事業成果

紀勢自動車道 始神テラス 展示状況

令和2年6月26日展示



始神テラス



2階 展示状況



展示状況



取組事業紹介



取組事業紹介

議論する事業②

(1) 事前評価の結果

実施主体	対策 区分	事業名	有効性		効率性		公益性		情報発信度	
			平均点	評価	平均点	評価	平均点	評価	平均点	評価
川越町	4	ふれあい広場ベン チ整備事業	3.0	B	3.0	B	2.8	C	2.5	C

(2) 事前評価における委員からのコメント

評価視点	評価点	委員からのコメント
有効性	3	地域の人々が集う場所での県産材利用は評価できる。
	3	明細も分かりやすい。
効率性	2	年100人は月100人の間違いでは？
公益性	2	使用頻度があまり多くないようである。
	2	本事業のロゴマークも貼ってほしい。
情報 発信度	2	写真が紛らわしい。作成したものは右端？
	2	PR状況の写真で誰もベンチに座っていないのは寂しい。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり			市町名	川越町
番号	事業名				
6	ふれあい広場ベンチ整備事業				
事業費	594,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			525,024	0	68,976

1. 事業の目的	ふれあい広場を木質化し、直接木材に触れることで木材や森林について理解を深める。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 地産地消の野菜等販売所「ふれあい広場」に木製ベンチを7台設置して、地元町民及び町外の方々に直接木材に触れることによって木材や森林について理解を深める。</p> <p>【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 川越町</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 1箇所（ふれあい広場）</p> <p>【事業量】 県産材木製ベンチ 7台設置</p> <p>【事業実施期間】 令和2年1月29日（水）～令和2年3月31日（火）</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 週1回開催（20人）×5週＝年100人</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	<p>【実施箇所の選定理由】 ふれあい広場に木製ベンチを設置することにより、自然の良さを身近に感じてもらい、木材利用に対する理解を深め木材の利用促進を図る。</p> <p>【事業実施により得られた効果】 県産の木材を使用することにより、温かみや木の肌触りと香りを感じることができ、木材利用に対する理解が深まった。</p> <p>【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 実施箇所は町が所有する施設であり、今後も引き続き町が管理します。</p> <p>【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 利用者の1人は、「ベンチに木材を使用したことにより、温かみや木の肌触りと香りを感じ、壁の木質化ともマッチし感じが良くなった。」別の利用者は、「座り心地も良くまた高さも程良く立ち上がりやすく良いベンチを設置してもらった。地域の公民館にも是非設置してほしい。」との声がありました。</p>

対策区分 4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名 川越町

事業名 ふれあい広場ベンチ整備事業

7. 写真



写真1
PR状況



写真2
PR状況



写真3
PR状況

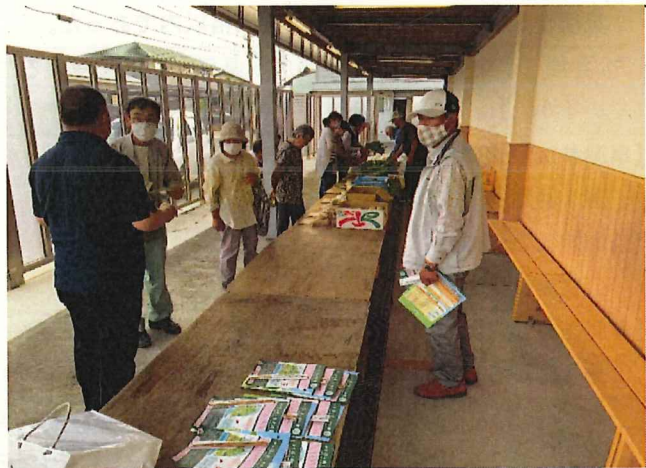
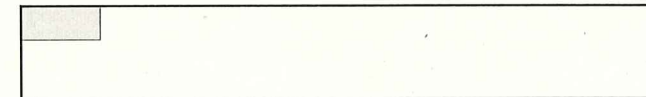
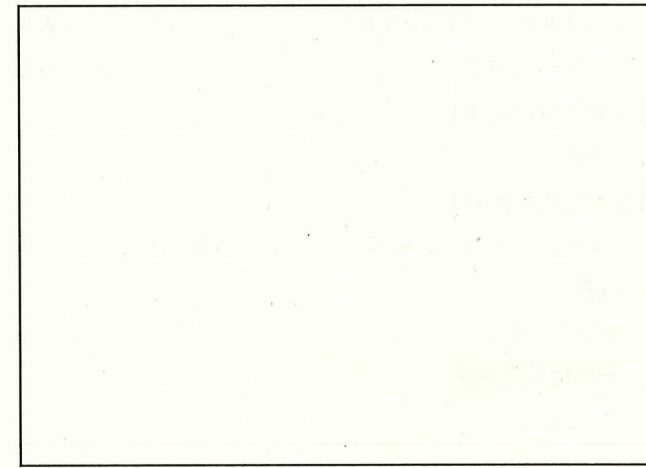
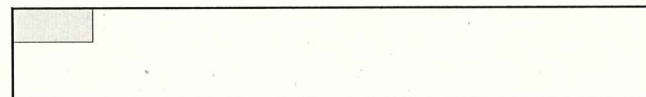
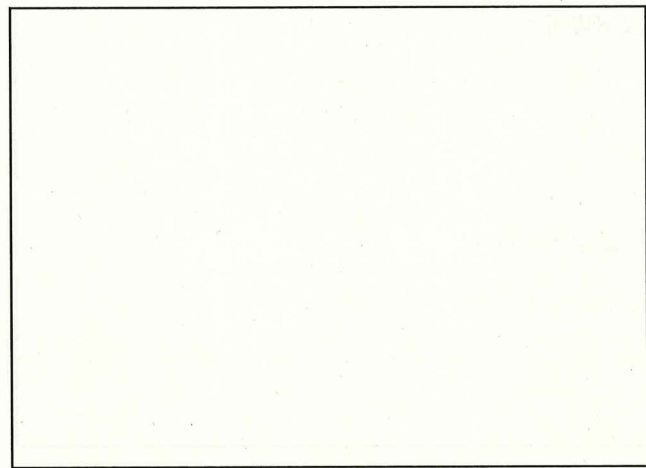


写真4
PR状況



対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり
------	-------------------

市町名	川越町
-----	-----

事業名	ふれあい広場ベンチ整備事業
-----	---------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
ベンチ政策・設置	台	7.00	65,000	455,000	
諸経費	式	1.00	85,000	85,000	
消費税	式	1.00		54,000	
事業費				594,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

ふれあい広場ベンチ整備事業（川越町）追加資料

1. 受益者数、参加者、利用者数等について

実績書の内容に誤りがありました。

ふれあい広場で開催される朝市における利用者

(誤) 週1回開催(20人) × 5週 = 年間100人

(正) 毎週日曜日開催、顧客数は100人程度



2. ロゴマークによる県民税のPR

実績書に記載はありませんでしたが、

ふれあい広場にロゴマークの入った

掲示で、みえ森と緑の県民税を活用

して整備したことを紹介しています。



3. 添付写真について



令和元年度事業で整備したベンチの設置状況

議論する事業③

(1) 事前評価の結果

実施主体	対策区分	事業名	有効性		効率性		公益性		情報発信度	
			平均点	評価	平均点	評価	平均点	評価	平均点	評価
紀北町	2	集落周辺森林（里山）整備事業	3.4	B	3.0	B	3.2	B	2.5	C

(2) 事前評価における委員からのコメント

評価視点	評価点	委員からのコメント
有効性	4	住民による里山整備を継続的に促進する事業となっている点が評価できる。
	3	受益者、入山届で把握できないか。
	3	補助金の設定
	4	登山道の整備活動に支援する取り組みは評価できる。
効率性	2	もっと補助額上げて良いのでは？
	3	少ない金額で大きな成果をあげている。他地域の活動と比べて安すぎる。
公益性	4	山歩きの方の安全につながる。
情報発信度	1	広く県民にアピール願います。
	2	他の手段でも情報発信をしてほしい。
	2	看板以外の広報について検討されたい。

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町
------	-----------------	-----	-----

番号	事業名				
2	集落周辺森林（里山）整備事業				
事業費	192,455 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			174,000		18,455

1. 事業の目的	<p>当地域は、沿岸部に人家が密集し、背後に急傾斜地を有する人家が多く、近い将来想定される東南海地震による津波の襲来が心配される。また、近年人家周辺山林に人が入ることが少なくなり、野生動物の隠れ場になっているケースも多い。</p> <p>このような集落周辺等の荒廃が進む森林を住民自らが整備し、森林の持つ多面的な機能を活用し、安全安心・快適な生活環境を創出していく。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】</p> <p>集落周辺等の荒廃森林や登山道において、風倒木の伐採、不要萌芽の除去、雑草木の刈払い、歩道の作設、土留めなどの森林整備活動費を実施した地域住民で組織する団体（ボランティア組織）に補助する。</p> <p>【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】</p> <p>地域住民で組織する団体（ボランティア組織）</p> <p>【補助率等】</p> <p>3名以上で組織する団体が自主的に取り組む、集落周辺の森林整備等に関する保全活動及び森林環境整備活動に直接必要と認められる経費（人件費、食糧費等は除く。）で、1ヘクタール当たり16万円を上限とする。</p> <p>補助金の額は1団体、年度当たり20万円を上限とする。</p> <p>集落から概ね1km圏内の森林であること。</p> <p>森林整備の場合は、森林所有者と『森林に関する協定』を締結している森林で事業を実施すること。</p> <p>【箇所数】</p> <p>1箇所（1団体）、箇所名：大台ヶ原尾鷲道、木津道 団体名：NTRC</p> <p>【事業量】</p> <p>登山道整備：14,340m</p> <p>【事業実施期間】</p> <p>平成31年4月12日～令和2年3月25日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】</p> <p>・ 整備は2つの登山道で実施されており、受益人数の把握は困難だが、多くの登山者への波及効果が期待できる。</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	<p>【実施箇所の選定理由】</p> <p>団体からの補助申請箇所について、職員が写真及び現地調査により現状を確認し、実施の必要性を検討して交付を決定している。</p> <p>【事業実施により得られた効果】</p> <p>不要な萌芽を除去し、散策路の安全、安心が図られると期待できる。また、登山道が整備され、登山者の安全、安心が図られる。</p> <p>【整備した場所・施設・備品の今後の活用】</p> <p>登山道として活用される。</p> <p>【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】</p> <p>登山者からは、登山道の環境が整備され、安全性が増したという意見をいただいている。</p>

対策区分 2.暮らしに身近な森林づくり

市町名 紀北町

事業名 集落周辺森林（里山）整備事業

7. 写真

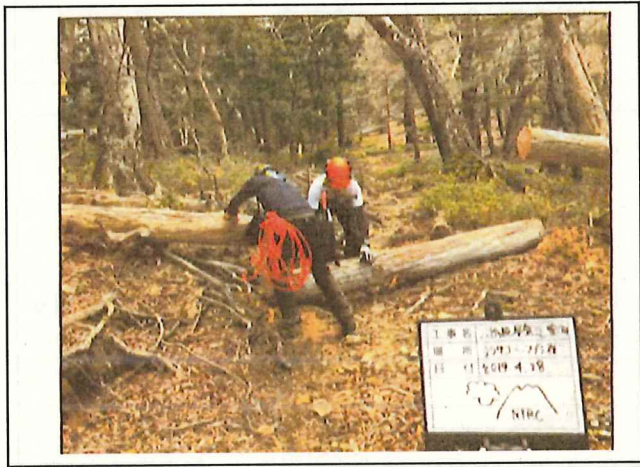


写真1
大台ヶ原尾鷲道【実施中】



写真2
大台ヶ原尾鷲道【実施中】

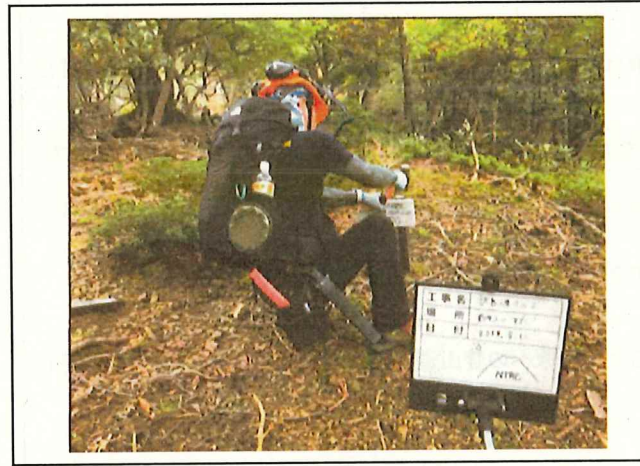


写真3
大台ヶ原尾鷲道【実施中】



写真4
木津道【実施中】

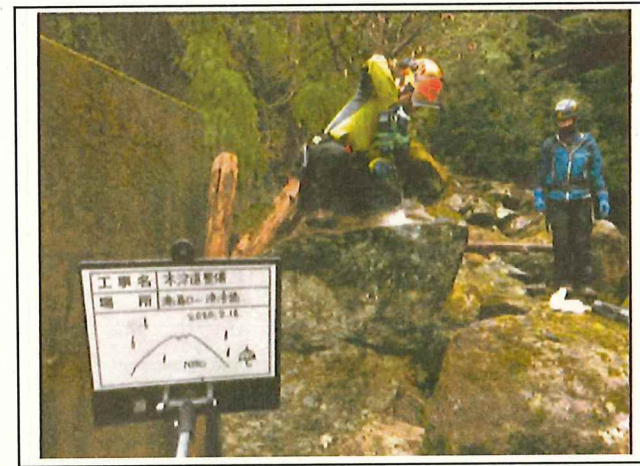


写真5
木津道【実施中】

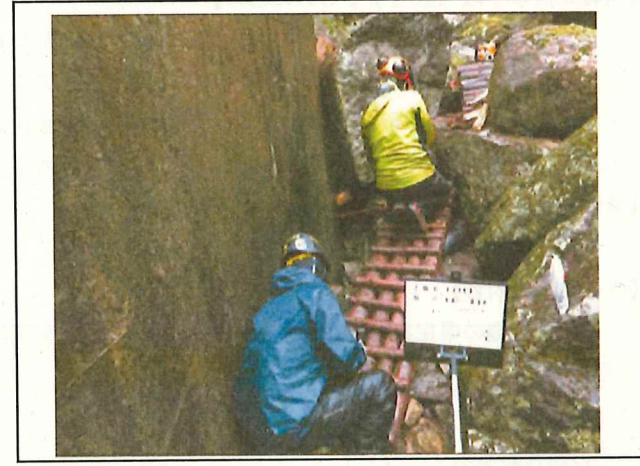


写真6
木津道【実施中】

対策区分 2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名 紀北町

事業名 集落周辺森林（里山）整備事業

7. 写真



写真1

大台ヶ原尾鷲道【実施後】



写真2

大台ヶ原尾鷲道【実施後】

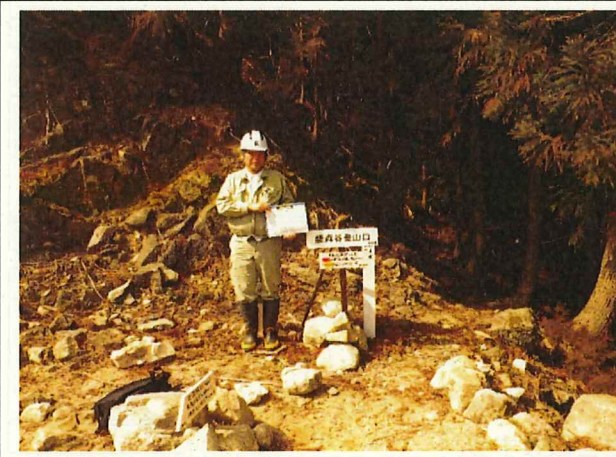


写真3

大台ヶ原尾鷲道【実施後】

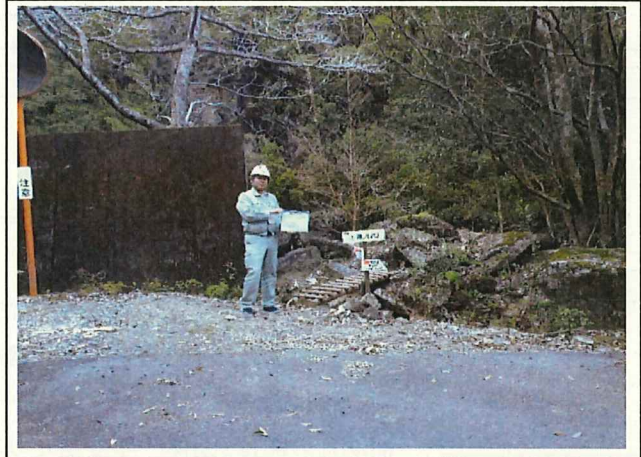


写真4

木津道【実施後】



写真5

木津道【実施後】



写真6

木津道【看板設置状況】

実績報告書に記載を行っていない情報発信

1. ケーブルテレビの行政チャンネルによる取組紹介

ケーブルテレビの紀北町行政情報チャンネルにおいて、前年度（平成30年度）の取組について紹介しました。

放送日：令和元年12月5日から1週間（1日複数回、繰り返し放送）

放送内容：前年度（平成30年度）の取組について、農林水産課職員が紹介しました。「危険木伐採事業」「集落周辺森林（里山）整備事業」ともに継続事業であるため、事業目的や制度も併せて紹介しています。

*事業実施箇所は、平成30年度と令和元年度で異なります。

令和元年度事業についても、令和2年度に同様に紹介する予定です。

2. パネル展示による事業成果の紹介（始神テラス）

紀勢自動車道の始神テラスにおいて、令和元年度の取組について紹介しています。

展示日：令和2年6月26日から

展示内容：令和元年度の取組について、パネルで紹介するほか、チラシやリーフレットを設置し、みえ森と緑の県民税のPRをしています。

1. ケーブルテレビの行政チャンネルによる取組紹介（テロップの抜粋）

（テロップ1）

みえ森と緑の県民税とは

「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるため、三重県で平成26年4月1日から導入された制度

（テロップ2）



（テロップ3）

平成30年度に実施した4つの取り組み

- ・「土砂や流木を出さない森林づくり」
- ・「暮らしに身近な森林づくり」
- ・「森を育む人づくり」
- ・「木の薫る空間づくり」

(テロップ5)

「暮らしに身近な森林づくり」

- ・危険木伐採事業

- ・志子奥地区

実施前



実施後



(テロップ6)

「暮らしに身近な森林づくり」

- ・集落周辺森林里山整備事業



(テロップ9)

基本方針

- ・災害に強い森林づくり
- ・県民全体で森林を支える社会づくり



強化・充実

- ・土砂や流木による被害を出さない森林づくり
- ・暮らしに身近な森林づくり
- ・森を育む人づくり
- ・森と人をつなぐ学びの場づくり
- ・地域の身近な水や緑の環境づくり

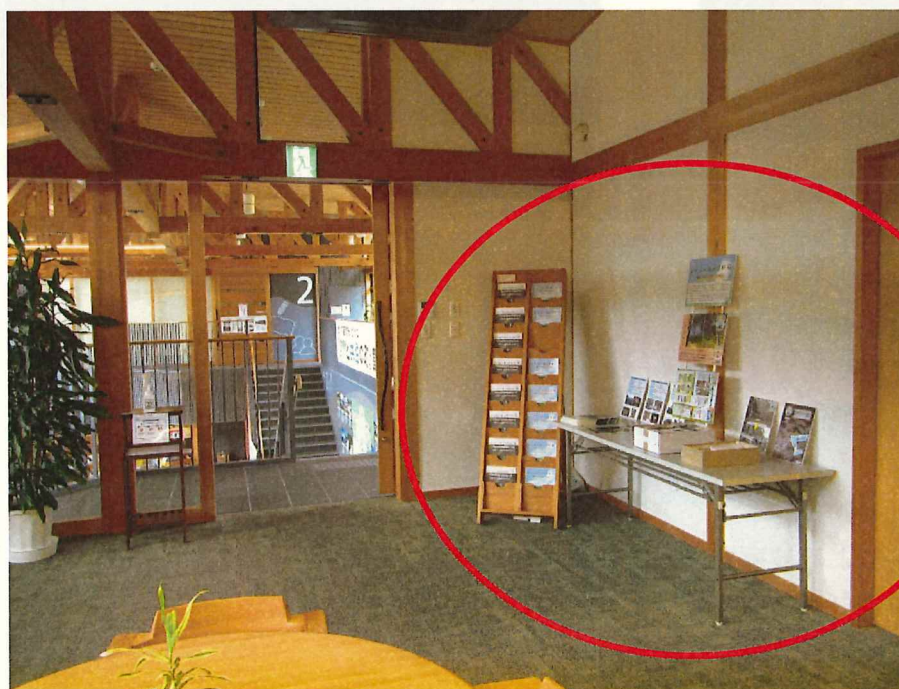
の5つの対策を実施していきます。

2. パネル展示による事業成果の紹介（始神テラス）

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業 事業成果
紀勢自動車道 始神テラス 展示状況
令和2年6月26日展示



始神テラス



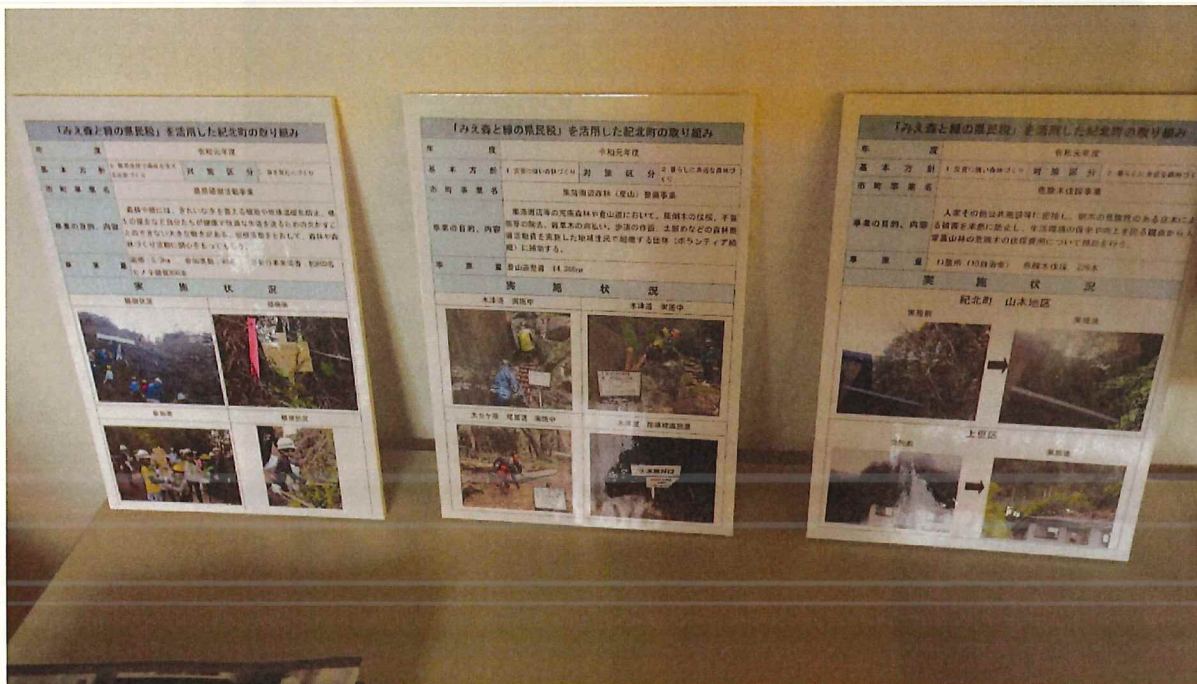
2階 展示状況



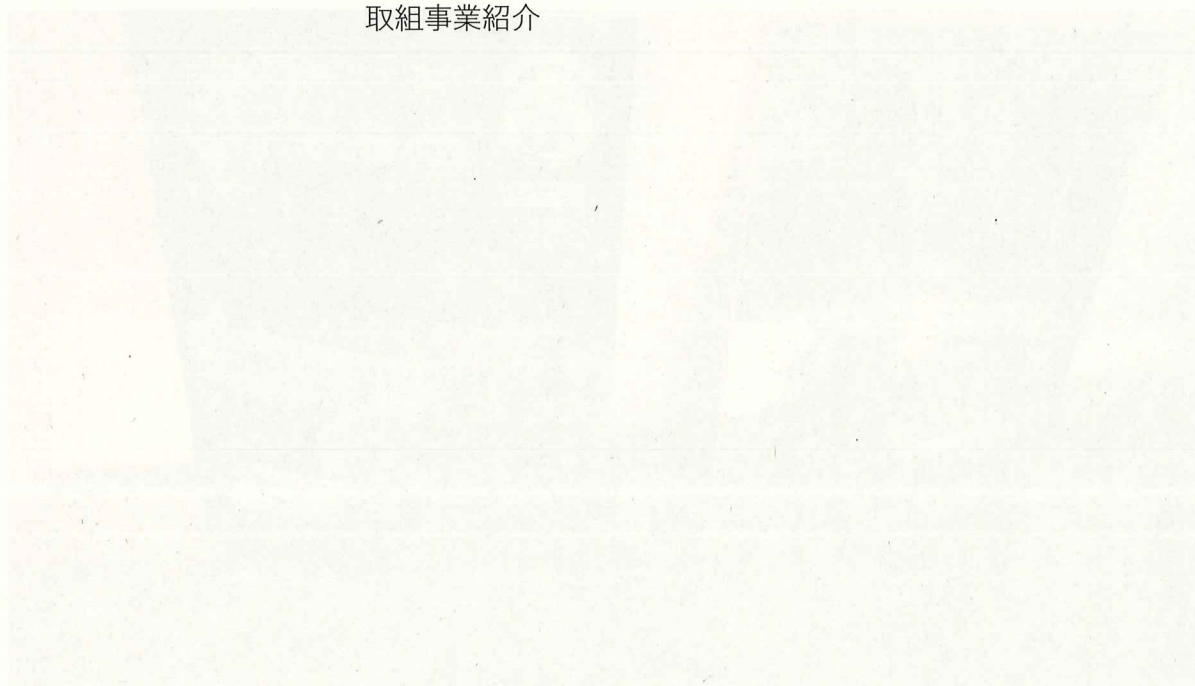
展示状況



取組事業紹介



取組事業紹介



議論する事業④

(1) 事前評価の結果

実施主体	対策 区分	事業名	有効性		効率性		公益性		情報発信度	
			平均点	評価	平均点	評価	平均点	評価	平均点	評価
桑名市	5	播磨2号緑地里山 整備事業	3.1	B	2.8	C	2.9	B	2.6	C

(2) 事前評価における委員からのコメント

評価視点	評価点	委員からのコメント
有効性	4	地元住民からの要望
	3	この森林が地域においてどのような位置づけでどのように活用されるのかを表記されたい。
効率性	2	明細があるが一式の表記では判断し難い。
公益性	3	相見積や積算根拠の確認が必要と思います。
	3	今後どのように地域の学校等と活用してゆくのか記載があるとよい。
情報 発信度	2	この整備をきっかけとして、住民の森林への関心が高まるよう、子ども達の森林環境教育的イベントなどを企画されるとよいのではないか。
	1	広く県民にアピール願います。
	2	作業中のフェンスに張り紙しただけでは不十分。

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	桑名市
------	--------------------	-----	-----

番号	事業名				
1	播磨2号緑地里山整備事業				
事業費	430,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			430,000		

1. 事業の目的	<p>荒廃した山を里山として山道などを整備し、緑の自然と身近にふれあう場を提供し、自然学習の場、地域活性の場、健康づくりの場として利活用する。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 枯木・危険木の除去、樹木の間引き、樹木剪定、剪定枝等をチップ化した木チップを利用した散策路の整備</p> <p>【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 桑名市</p> <p>【補助率等】 補助事業でなく該当しない</p> <p>【箇所数】 1箇所(播磨2号緑地内)</p> <p>【事業量】 0.46ha</p> <p>【事業実施期間】 平成31年4月～令和2年3月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 幼児、小学生等緑地利用者 延べ5,000人</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	<p>【実施箇所の選定理由】 播磨2号緑地は住宅街に隣接し、受益者も多いが、里山としては荒廃しており、整備を行うことが望まれていたため。</p> <p>【事業実施により得られた効果】 危険な樹木を撤去する等、公園利用者の安全を確保することで、近隣住民が安心して緑や自然とふれあう場を創出することができた。</p> <p>【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 市内の小学校やボランティア団体による森林環境教育等に関する利用 里山散策路の開放</p> <p>【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 込み入った雑木や枯れ木撤去等により、風通しがよくなり、獣等の侵入も少なくなったとの声をいただいた。</p>

対策区分 5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名 桑名市

事業名 播磨2号緑地里山整備事業

7. 写真



写真1
実施前



写真2
実施後



写真3
実施前



写真4
実施後



写真5
実施中掲示看板及び説明（入口）



写真6
実施中掲示看板及び説明（小屋）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり
------	--------------------

市町名	桑名市
-----	-----

事業名	播磨2号緑地里山整備事業
-----	--------------

積算資料 (実績報告参考資料)

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
播磨2号緑地里山整備業務委託	件	1.00	430,000	430,000	
事業費				430,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
里山整備	雑木整理,散策路、水路整備	件	1.00	430,000	430,000	
	計				430,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

播磨2号緑地里山整備事業（桑名市）

1. 本事業の位置づけ

本事業は、平成30年度に活動団体「ホタルとなかまの会」と桑名市における「播磨2号緑地施設の利活用等に関する協定書」に基づき、下記の協定目的を達成するため、当該団体に随意契約で業務委託した事業です。

令和元年度は3カ年計画の2年目となり、対象区域1.38haの1/3に当たる0.46haを毎年区域を変え里山整備を行っています。

令和元年度は、年間延べ252人、57日間の活動実績です。

（目的）・・・協定書第1条より

この協定は、播磨2号緑地の現況樹林や里山となる森を再整備し、緑豊かな自然と身近にふれあう場を提供するとともに、里山からの湧水等を活用して播磨特定土地区画整理事業区域内に生息していたゲンジボタルの種の保存を行い、自然学習や地域の活性化、健康づくりを含めた森林環境教育の場として利活用することを目的とする。

2. 整備した森林の活用

毎年6月上旬に、地域市民を対象に、ホタルの飛翔観察会を実施しており、このようなイベントを通じ広く市民に情報発信しています。

*令和元年度は、6月1日（土）、2日（日）、8日（土）、9日（日）

の4回実施。参加人数 延べ3,204人

今後は、教育委員会と連携して市内の小中学校等の森林環境教育のフィールドとして、活用していく予定です。

議論する事業⑤

(1) 事前評価の結果

実施主体	対策区分	事業名	有効性		効率性		公益性		情報発信度	
			平均点	評価	平均点	評価	平均点	評価	平均点	評価
鈴鹿市	4	森林環境に関する講演事業及び木製備品購入事業	3.3	B	2.6	C	3.2	B	2.8	C

(2) 事前評価における委員からのコメント

評価視点	評価点	委員からのコメント
有効性	4	単に木製備品の購入だけでなく、講演会と組み合わせた点については評価できる。
	4	木製品を購入した際での講演会は有効であると思われる。
	3	公共施設における県産材利用は評価できる。
効率性	2	1回の講演料としては高額すぎないだろうか？30万円あれば何度かシリーズで開催することもできたのでは？
	2	参加者69名に対して講師謝金が高くないか。
	2	講師謝礼 高いのでは？
	2	備品の明細が示されていることは評価できる。絵本作家の講演会謝金はかなり高額と考えるが、講師および内容を知りたい。
公益性	4	講演会の案内が広くなされている。
	3	子どもの頃から無垢材に触れる機会が増えることは評価できる。
情報発信度	2	本事業のロゴマークも貼ってほしい。
	3	様々な媒体で紹介している。

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	鈴鹿市
------	-------------------	-----	-----

番号	事業名				
5	森林環境に関する講演事業及び木製備品購入事業				
事業費	3,800,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,800,000	0	0

1. 事業の目的	
<p>自然（動物・植物）など様々なテーマで創作活動をしている絵本作家を講師に招き講演を実施することで、参加者に自然との関わりに関心を持ち、自然の素晴らしさに気づき、大切さを感じていただき、より一層郷土の森林を身近に考えてもらうきっかけの場とする。また、前年度までに三重県産材を使用した書架・テーブル・イス等の備品を購入し、図書館内は温かみのある空間となってきたため、平成31年度もさらに事業を拡大し、木製品の良さを感じられる空間づくりに努める。</p>	
2. 事業実績概要	
<p>【事業内容】 自然（木・植物）をテーマに講演を行い、自然の大切さをなどに関心を持っていただく場を提供する。また、木製備品を購入し、図書館内を親しみやすい空間とする。</p> <p>【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 鈴鹿市</p> <p>【補助率等】 補助事業ではないため、該当しない。</p> <p>【箇所数】 1箇所（講演は鈴鹿市立図書館本館内にて開催。備品は閲覧用椅子、案内板等を購入し、閲覧室・ロビーに設置）</p> <p>【事業量】 講師謝礼 閲覧用椅子20脚（一般用12脚、児童用8脚）、木製案内板（2台）、木製ガラス戸付DVD棚（1台）、木製しかけ傾斜絵本棚（1台）、木製子育て支援コーナー用本棚（1台）、木製文庫用本棚（1台）、木製おはなし会テーブル（1台）、木製掲示板（15台）</p> <p>【事業実施期間】 平成31年4月～令和2年3月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 講演会参加者69名（把握方法は受付簿にて確認。）、図書館利用者数</p>	
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	
<p>【実施箇所の選定理由】 図書館内に木製備品を設置することにより、多くの利用者に木製備品を使用していただくことができる。また、木製備品に森と緑の県民税のロゴマークを貼り付けることで、交付金が有効に活用されていることを利用者に周知することができるため。</p> <p>【事業実施により得られた効果】 講演会を開催することにより、自然との関わりに関心を持ち、自然の素晴らしさに気づき、自然を大切にすることの大切さを感じてもらい、木の大切さの学びの場となった。</p> <p>【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 子ども向けに木工工作イベントを開催し、木にふれあう機会をつくり、その場で講師により森林の働きについて啓発を行う。</p> <p>【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 講演会は、定員を上回る応募があり、講演会のアンケートも概ね好評の感想をもらった。</p>	

対策区分 4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名 鈴鹿市

事業名 森林環境に関する講演事業及び木製備品購入事業

7. 写真



写真1 講演会の様子

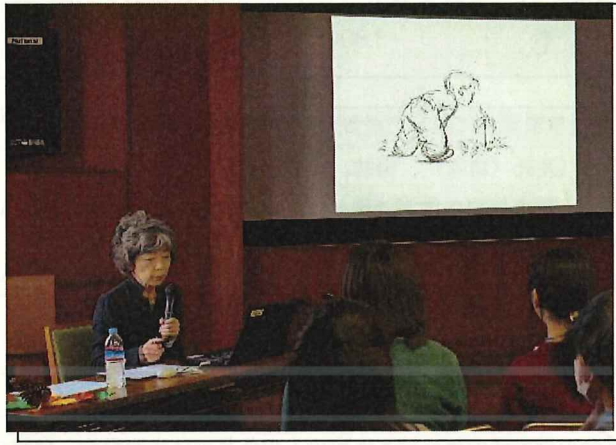


写真2 講演会の様子



写真3 児童閲覧室用椅子

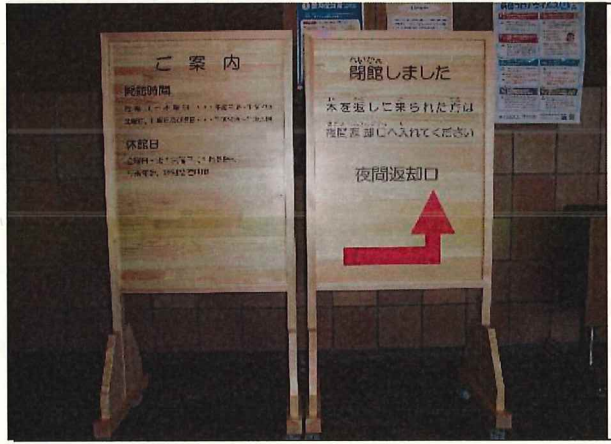


写真4 木製案内板

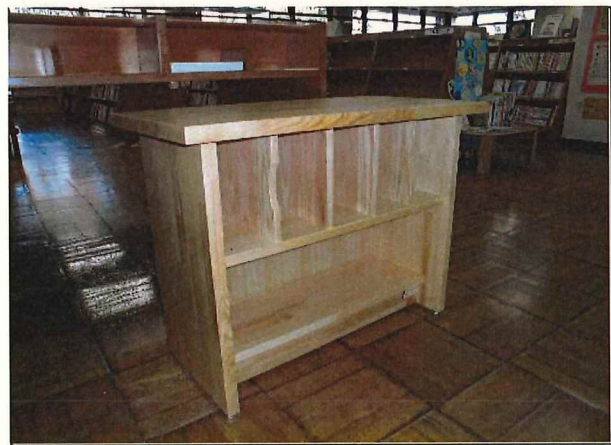


写真5 木製おはなし会テーブル



写真6 木製掲示板

対策区分 4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名 鈴鹿市

事業名 森林環境に関する講演事業及び木製備品購入事業

7. 写真



写真7 講演会開場内に森と緑の県民税事業案内ポスターを掲示



写真8 一般閲覧室用椅子



写真9 木製しかけ傾斜絵本棚

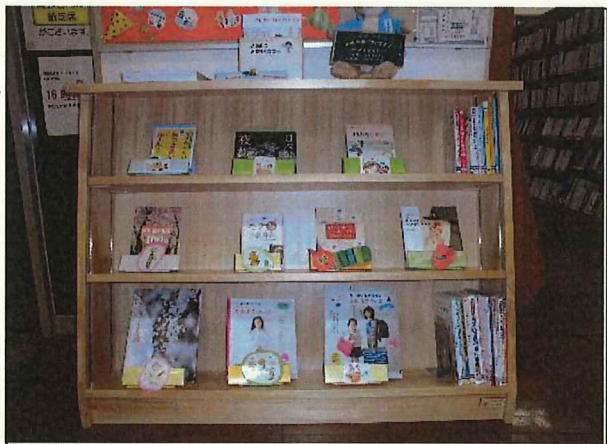


写真10 木製子育て支援コーナー用本棚

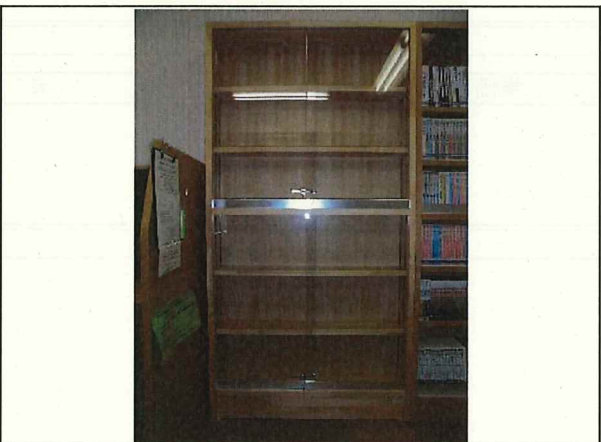


写真11 木製ガラス戸付DVD棚

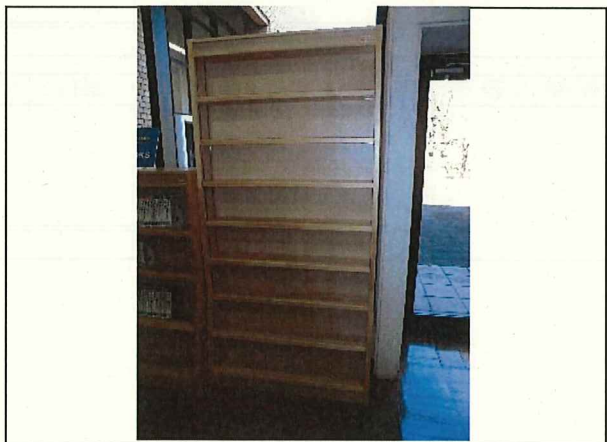


写真12 木製文庫用本棚

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり
------	-------------------

市町名	鈴鹿市
-----	-----

事業名	森林環境に関する講演事業及び木製備品購入事業
-----	------------------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
講演会講師謝礼				300,000	
木製備品				3,500,000	
事業費				3,800,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
講演会（11月開催）	講師謝礼				300,000	
					300,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
木製備品	木製案内板	台	2.00		2,831,400	
	木製ガラス戸付DVD棚	台	1.00			
	木製しかけ傾斜絵本棚	台	1.00			
	木製子育て支援コーナー用本棚	台	1.00			
	木製文庫用本棚	台	1.00			
	木製おはなし会テーブル	台	1.00			
	木製掲示板	台	15.00			
	木製閲覧用椅子	脚	20.00		668,600	
	計		42.00		3,500,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

(講演内容)

講演会に来ていただいた絵本作家の方の作品には、「木」や「動物」、「植物」などが作品のテーマや内容に描かれていることから、「いのちを育む森と木と」を今回の講演会のテーマの内容で講演をいただいた。

講演会では、絵本作家の方の、木や植物に対する思い、自然の大切さやすばらしさ、絵本の題材となった樹木についての話などを内容として講演していただき、講演会の後は、参加者からの質問コーナーを開催した。

(講師の選定理由)

「みえ森と緑の県民税市町交付金事業に係る Q&A」の中にも示されていた取組事例として、自然環境を大切にする、身近な動物や植物などの自然とのかかわりに関心を持ち、自然のすばらしさに気づき、自然を大切にするを森林環境教育として実施していることなどが挙げられていることから、今回の講演会講師として選定をした絵本作家の作品のこれまでのテーマや内容が交付金を活用するにふさわしい講師であると判断した。

(講師謝金の妥当性)

講演会講師は、「野間児童文芸新人賞」「講談社出版文化賞絵本賞」など多くの賞を受賞されており、フランスをはじめ多くの国で翻訳出版されている日本を代表する知名度の高い絵本作家である。

また、各地で講演会を開催しており、講演会を開催した図書館から講演料の聞き取りをした結果、開催期間、講演に伴う原画展示の有無等、開催方法に違いがあるものの、今回の講演料30万円(諸経費含む)については妥当な講演料であった。

また、講演会で使用したパワーポイントは、今回の講演会のためのオリジナルの内容として講師が業者に作成委託をされ、作成委託料金やそのほか交通費、宿泊費も全て今回の講師謝金に含まれているため、妥当な支払いであると判断した。

絵本作家 いせひでこさん講演会

～ いのちを育む森と木と ～

【日時・内容】 2019年11月9日(土)

- 講演会 13:30～15:00 (開場 13:00)
- 質問コーナー 15:00～15:20
- サイン会 15:40～16:40

※ サイン会は講演会に参加していただいた方限定となります。

サインを希望される方は、いせさんの本を各自で準備してください。

サインは本のみとさせていただきます。(1人1冊となります。)

【場 所】 鈴鹿市立図書館2階 視聴覚室

【定 員】 70名 ※応募者多数の場合は抽選となります。対象は小学生以上。

託児はありません。未就学児の入場はご遠慮ください。

【参加費】 無料

【申込み期間】 9月21日(土)～10月5日(土) (必着)まで

※ 申込み詳細については裏面をご覧ください。

～いせひでこさんプロフィール～

画家、絵本作家。1949年生まれ。13歳まで北海道で育つ。東京芸術大学卒業。

「マキちゃんのえにつき」で野間児童文芸新人賞、「ルリユールおじさん」で講談社出版文化賞絵本賞を受賞されました。エッセイに「ふたりのゴッポ」、絵本に「大きな木のような人」、「木のあかちゃんズ」など多くの作品を発表されています。



「大きな木のような人」
©いせひでこ 2009年講談社刊



「ルリユールおじさん」
©いせひでこ 2011年講談社刊

【申込方法】

- a) **往復はがきの場合** 下記の事項を記入のうえ、お申込みください。

注) 複数名申し込めますが、1組につき1枚の申し込みに限ります。

消せるボールペンでの記入はおやめください。

往信表面：〒513-0802 鈴鹿市飯野寺家町 812 番地 鈴鹿市立図書館「いせひでこ講演会」係

往信裏面：①住所 ②氏名（参加者全員）③電話番号 ④いせさんに質問のある方は質問を記入してください。⑤ その他 車椅子でお越しの方や手話通訳など必要とされる方はその旨ご記入ください。

返信表面（図書館からの返信になります）：郵便番号、住所、氏名（複数名での申込みの場合は代表者名）

- b) **FAX の場合**

件名を「いせひでこ講演会申込み」とし、往復はがきの往信裏面の内容を記入して FAX を送ってください。

FAX：059-382-4000

- c) **電子メールの場合**

件名を「いせひでこ講演会申込み」とし、往復はがきの往信裏面の内容をメール送信してください。

E-mail: toshokan@city.suzuka.lg.jp ※図書館からのメールを受信できるように設定しておいてください。

★上記いずれかの方法で 10月5日（土）（必着）までに応募してください。

申込み結果

参加の可否は **10月15日（火）頃を送信予定**としております。返信がない場合は、図書館までお問い合わせください。

※応募多数の場合は抽選となります。落選の場合も必ず返信いたします。

参加者駐車場

混雑が予想されますので、社会福祉センター・労働福祉会館敷地東側の未舗装駐車場へできる限り詰めて駐車をお願いします。



<お問合せ・申込み先> 鈴鹿市立図書館 鈴鹿市飯野寺家町 812 番地

☎：059-382-0347 FAX：059-382-4000 メール：toshokan@city.suzuka.lg.jp

～ みえ森と緑の県民税 ～

森林には、きれいな水を貯える機能や地球温暖化の防止、県土の保全、癒しや健康増進など、私たちが健康で快適な生活を送るために欠かすことのできない大切な働きがあります。

しかし、山村地域の過疎化や林業の不振などにより、手入れが不足した荒廃森林が増えています。異常気象が増加していることも考え合わせると、自然災害の発生リスクが高まっていると考えられます。

そこで、県では、「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるため、「みえ森と緑の県民税」を平成26年4月1日から導入しました。県と市町が、「2つの基本方針と5つの対策」に沿って、みえ森と緑の県民税を活用した取組を行います。

< 三重県公式ウェブサイト/三重の森林づくり HP より（一部抜粋） >

みえ森と緑の県民税 市町交付金事業

絵本作家 いせひでこさん講演会 ～ いのちを育む森と木と ～

を鈴鹿市立図書館で開催しました。

令和元年 11 月 9 日（土）に「絵本作家 いせひでこさん講演会 ～いのちを育む森と木と～」を開催しました。

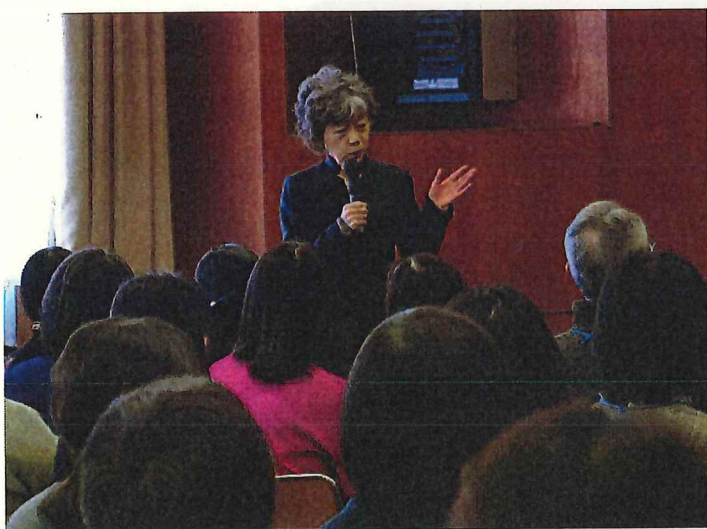
いせひでこさんの作品には、「木」や「動物」、「植物」などが作品のテーマや内容に描かれていることから、「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用し、今回の講演会のテーマの内容で、ご講演をいただくこととなりました。

講演会では、いせさんの木や植物に対する思い、絵本に登場する木についてのお話、被災地での活動など、いせさんの温かいお人柄に触れるとともに、絵本作家の方の貴重なお話を聞くことができました。

講演会の後は、事前に参加者からいただいていた質問をいせさんにお答えいただく質問コーナーを開催し、最後にサイン会を行い、イベントは無事終了しました。

図書館では、今回絵本作家の方に初めてイベントでお越しいただく企画をしましたが、参加者の方からは、絵本作家の方にお会いできて嬉しかったとの声が多く寄せられました。

図書館では、今後もさまざまなイベントを企画していきますので、みなさんぜひ図書館を利用してください。



議論する事業⑥

(1) 事前評価の結果

実施主体	対策区分	事業名	有効性		効率性		公益性		情報発信度	
			平均点	評価	平均点	評価	平均点	評価	平均点	評価
南伊勢町	3	森林環境教育事業	3.1	B	3.0	B	3.1	B	2.6	C

(2) 事前評価における委員からのコメント

評価視点	評価点	委員からのコメント
有効性	3	対象年齢は？
	2	森林環境教育の効果についてもアンケートを取るなどして、調べてほしい。
	3	多くの学校で森林環境教育に取り組んでいることは評価できる。
効率性	3	明細もわかりやすい。
公益性	3	子どもから保護者への会話のきっかけにもなる。
情報発信度	1	広く県民にアピール願います。
	2	行政チャンネルなどでも取り上げてほしい。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金(基本枠、加算枠)事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	南伊勢町
------	-------------	-----	------

番号	事業名				
2	森林環境教育事業				
事業費	179,300 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			179,000		300

1. 事業の目的	森林や緑を大切に思い育む人づくりや、森林への理解を深めるため、小学生を対象に、森林の働きや木材について学びふれあう機会となる森林環境教育を実施する。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 町内の小学生を対象に、森や緑について学びふれあうことを目的とした木育教室を実施する。</p> <p>【実施主体(補助事業の場合は補助事業実施主体)】 南伊勢町</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 3箇所(南島西小学校・南島東小学校、南勢小学校)</p> <p>【事業量】 南島西小学校：1年生10名・2年生7名 南島東小学校：1年生10名 南勢小学校：1年生34名 計61名</p> <p>【事業実施期間】 令和2年2月6日～令和2年2月28日</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	<p>【受益者、参加者、利用者数等】 南島西小学校17名、南島東小学校10名、南勢小学校34名及び学校関係者に対し、森林のもつ働きや海との関係性を話すとともに、木の葉や幹の輪切りの提供や、木のマグネット作りを通して触れ合う機会を創出したことで、森林についての理解が進んだ。</p> <p>【実施箇所の選定理由】 興味を持って話を聞き、軽作業を楽しみながらできる低学年をベースに検討し、町内の3小学校のすべての1年生を対象とした。学校の希望によっては2年生も実施した。</p> <p>【事業実施により得られた効果】 森林や木材にふれあう機会が少ない現代の子どもたちにおいて、木や緑とふれあう貴重な機会であり、森林に興味を持ってもらえたとても良い機会になった。木のマグネットを作ったことは、保護者にも喜ばれたとこのことを先生からお聞きした。先生からも子どもたちも楽しんで取り組めたとの声をいただいた。</p> <p>【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 木とふれあう貴重な機会であり、楽しみながら体験が出来るので、今後も継続的に森林環境教育を実施していく。</p> <p>【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 対象児童から森林への興味や理解が深まったと手紙が届いた。先生方からも好評であり、今後も継続して実施していく。</p>

対策区分 3. 森を育む人づくり

市町名 南伊勢町

事業名 森林環境教育事業

7. 写真



写真1
森林環境教育 南島東小学校 令和2年2月10日



写真2
森林環境教育 南島東小学校 令和2年2月10日

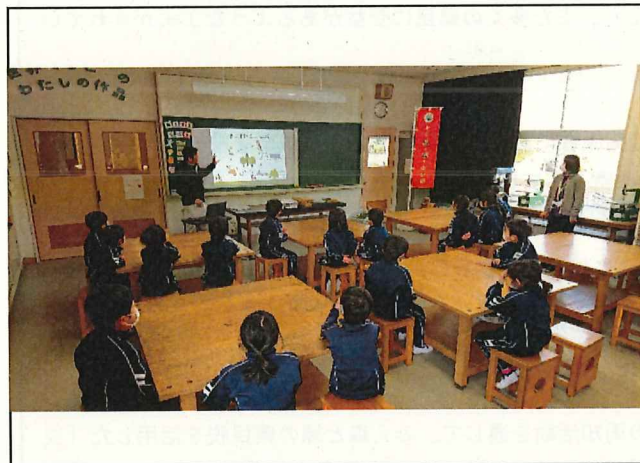


写真3
森林環境教育 南島西小学校 令和2年2月12日

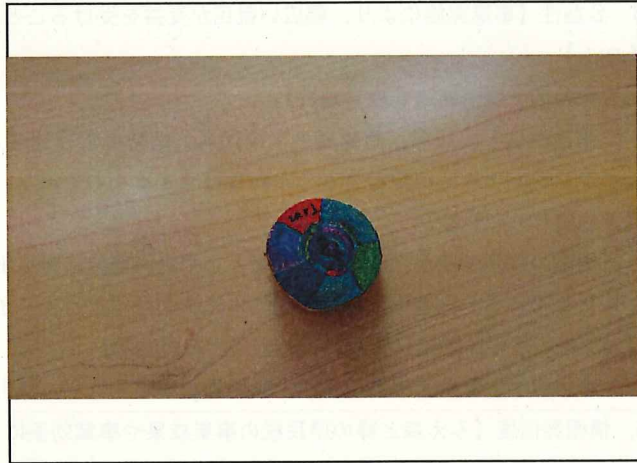


写真4
森林環境教育 木のマグネット完成品



写真5
森林環境教育 南勢小学校 令和2年2月18日



写真6
森林環境教育 南勢小学校 令和2年2月18日

森林環境教育事業（南伊勢町）

1. 対象年齢

参加の対象は、小学1年生及び2年生の61人です。

（参加者の内訳）

南島西小学校：1年生10名・2年生7名

南島東小学校：1年生10名

南勢小学校：1年生34名 計61名

2. 実績報告書に記載を行っていない情報発信

・のぼりの設置

森林環境教育の会場にのぼりを設置しました。



・学校通信による周知

本事業で取り組んだ森林環境教育の様子について、学校通信に記載し、広く保護者や学校関係者に周知しました。

議論する事業⑦

(1) 事前評価の結果

実施主体	対策区分	事業名	有効性		効率性		公益性		情報発信度	
			平均点	評価	平均点	評価	平均点	評価	平均点	評価
県	1	森林情報基盤整備事業	3.3	B	3.2	B	3.2	B	2.7	C

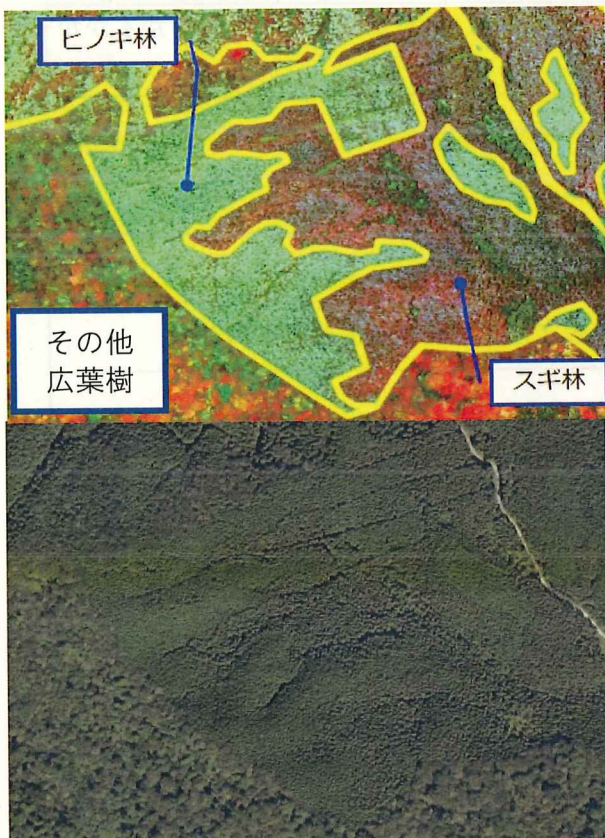
(2) 事前評価における委員からのコメント

評価視点	評価点	委員からのコメント
有効性	3	森林の情報は重要なテーマであるが、データをどのように活かすかが大切である。
効率性	4	国庫補助事業を活用して効率的に実施されている。
	2	集めたデータをどのように活かせるのかをもっと示して欲しい。
公益性	3	森林情報収集の公益性は認められる。
情報発信度	3	アカデミーでの講義だけでなく、一般向けへの情報発信も望まれます。
	2	公開講座の参加人数と対象者は？
	2	今回の資料ではこの事業を行うことによってどのように森林施策が変化してゆくのか読み取れない。

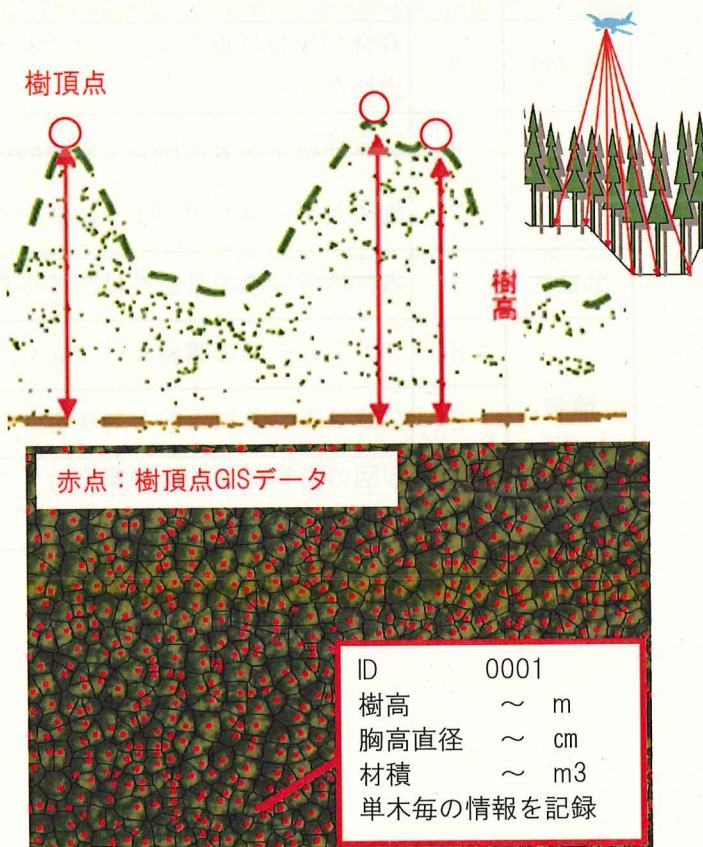
森林情報基盤整備事業

樹種や樹高、立木密度、材積等の森林資源情報を正確に把握することは、森林整備を行ううえで重要であるとともに、精度の高い3次元地形データを取得することにより、災害発生の危険性の高い地域等を効率的に把握することが可能となることから、災害に強い森林づくりをより効果的に進めるため、航空レーザ測量を実施します。

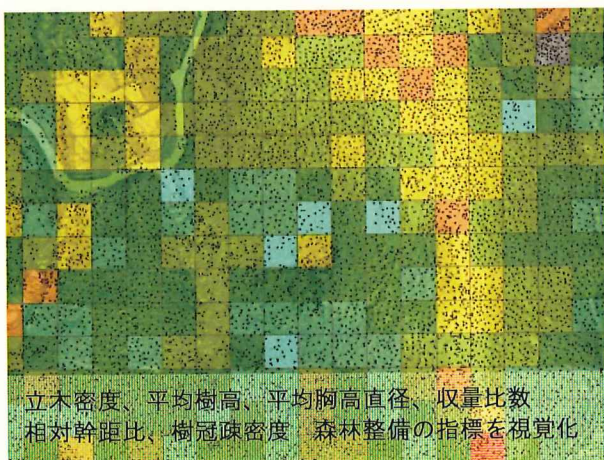
① レーザ反射強度を利用し、樹種を分類



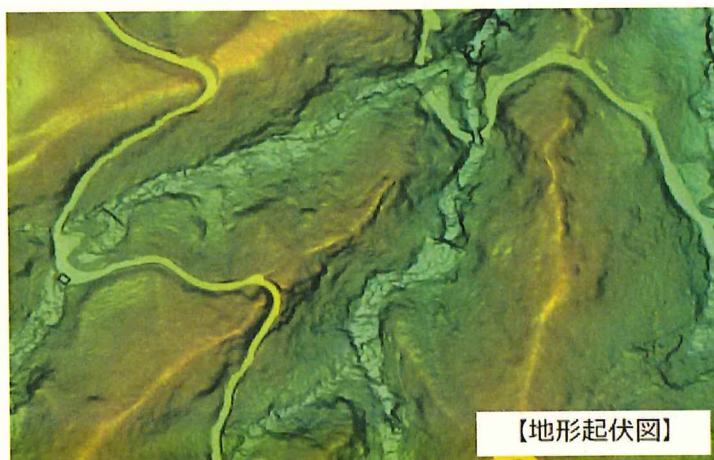
② 樹頂点位置を推定し、単木情報を解析



③ 単木情報を林分ベースで集約



④ 詳細な地形情報を取得



⇒これらの森林情報を活用することで、森林整備を優先的に実施すべき林分の把握や詳細な微地形情報により、表面浸食や流木発生等が懸念される箇所等の抽出が可能

航空レーザ測量の実施状況



森林情報基盤整備事業（三重県）

1. みえ森林・林業アカデミーでの講義について

みえ森林・林業アカデミーの令和元年度選択講座の「森林GIS活用講座」において、航空レーザ測量や森林資源解析の講義を行いました。
受講生は、森林組合の職員や林業事業体の職員18人でした。

2. 一般向けの情報発信について

令和元年度は航空レーザ測量の成果品がなかったため、その活用法などについて一般向けのPRが難しい状況でした。

今年度は、令和元年度の成果品をもとに、一般向けへもPRを行っていく予定です。